

別紙 1 (学位論文の審査結果の要旨)

専攻名 システム創成科学

氏名 Poornika Kumari Seelagama

本研究はスリランカの持続可能な観光産業の発展に関するフォーマル・インスティテューション (Formal Institutions (FI): 具体例—観光産業管理局の設立、空港と航空の整備、ホテル・レストランの改良、国内交通機関の改善、観光サイトの情報案内サービスの整備、ガイドサービスの供給、マーケティング施設の供給、観光客の安全と健康に必要とされる施設の整備などの行政・民間機関)、およびインフォーマル・インスティテューション (Informal Institutions (II): 具体例—外国人客に対する国民の相互的理解、受け入れ態度、相互的信頼、働く文化、行政官の労働倫理、社会的価値、多様な文化の理解と伝統的な考え方、教育レベルなどの積極的協力) の相互関係とその影響について、「制度経済学」観点から理論的かつ実証的に分析した学術的研究である。また、スリランカの観光産業の発展に日本、特に佐賀県から上記の FI と II の役割についてどのような教訓を得ることができるのかについても分析した学術研究である。

本論文の仮説は次の2つである。FI を整備して豊富に設置しても、観光産業の発展は必ずしもスムーズに実現できるものではない。また、持続可能な観光産業の発展のためには諸要素を効率的に利用できる II が最も重要である。本論文の研究手法は、FI と II の両要素がスリランカの観光産業の発展にどのような影響を与えているのかを実証的に明らかにするために、文献調査とアンケート・聴き取り調査を実施する。

学術的貢献として、本研究は観光産業の発展と「フォーマルとインフォーマルのインスティテューション」の関係についてスリランカで初めて

実施された研究として高く評価できる。

本論文は全7章で構成されている。第1章は序論として、観光産業の発展に関するインスティテューションの関係について制度派経済学を中心とした理論的サーベイを行っている。第2章では、理論をもとに観光産業の発展に対するインスティテューションの影響、特に戦後スリランカの観光産業の発展にインスティテューションがどのように影響してきたのかをマクロレベルの分析で示している。第3章では、本研究を分析するにあたり、研究の概念的枠組みと調査手法についてまとめている。第4章と第5章では、マクロレベルの分析で明らかになったことをさらに深く理解するために、アンケート・聞き取り調査のデータを基にしてスリランカの観光産業の発展に対するフォーマルとインフォーマル・インスティテューションの影響について明らかになった調査結果の分析を展開している。第6章では、スリランカの持続可能な観光産業の発展のために、日本からどのような教訓を学べるのかについて分析している。第7章では、マクロ・ミクロレベルの分析で明らかになったこと、および残された課題についての要約を行っている。

本論文の分析から明らかになったことは以下の通りである。①観光産業はスリランカの第3番目に高い外貨獲得効果があり、GDP と就業構造の一割以上を占める規模に相当すること、②スリランカと日本の観光産業の発展は、主に内部的要因(国内)と外部的要因(国外)によって大幅に変更したこと、③同産業の発展は、フォーマル・インスティテューションの発展だけでは実現できないこと、④観光産業の発展とインフォーマル・イ

ンステイテューションとの関係が極めて大きいこと、⑤スリランカの場合は両インステイテューションの相互関係がほとんどないために、地域社会における観光産業の経済的波及効果が極めて弱いこと、⑥日本（佐賀）の教訓から学んだのは、同産業に関係する「行政機関」・「民間部門」・「地域社会」の相互関係が強固につながっており、各々が互いに協働して事業に取り組む姿勢があることで、その結果、観光産業の経済的効果が持続的なものとなり、より高い効果を発揮できることである。上述のように両国の調査で明らかになったことを学術論文として纏め、学内外の4つの学術雑誌で出版している。また、国内外の学会・国際シンポジウムで発表している。

以上、本論文は、スリランカの持続可能な観光産業の発展におけるインステイテューショナル要因の影響とその問題点を理論的かつ実証的に、実態調査に基づく独自の学術的見解を展開しており、開発経済学の分野における先駆的な業績となっている。また、スリランカの経済発展政策に大いに貢献できるものであり、有効な知見が示されている

平成29年2月7日に実施した学位論文公聴会においても種々の質問がなされ、いずれも著者の説明により質問者の理解が得られた。以上の審査結果に基づき、本論文は博士（学術）の学位を授与するに値すると判断され、審査委員全員一致で合格と判定された。